

6  
June

2007

弘前大学

# 学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL.155

## CONTENTS

- I 巻頭言 弘前大学長  
遠藤正彦 2
- II 特集  
「がんばれ新入生」 4
- III 各施設長挨拶 15
- IV 研究室の紹介 22
- V 新任教員自己紹介 24
- VI けいじばんコーナー 26
- VII 編集後記 26



制作 教育学部学生 小笠原真希

特集  
「がんばれ新入生」



# I 巻頭言

新入生の皆さん、弘前大学入学おめでとう。

もう大学の講義になれましたか。アパートの生活も落ち着きましたか。友人ができましたか。もう大学生活を楽しんでいますね。

そしてまわりを見回すゆとりができましたか。そんなゆとりができたなら、一度学長室にきて、学長と話をしてみませんか。

本学では、学生が学長に直接意見を述べたり、苦情を言ったりするチャンスは3通りの制度があります。誰でもが学長と直接話のできるのは“学長オフィスアワー”です。各学部の皆さんの代表が一堂に会して話し合いをするのが“学長懇話会”です。そして、自分の名前を知られたくない場合等、投書で学長に物申すのが“学長直言箱”です。これらについてどんなものかお話ししましょう。

まず“学長オフィスアワー”です。これは本学の構成員なら誰でも、すなわち、学生も、教員も、職員も、学長室で学長と直接、つまり差しで、どんなことでも話し合うことができます。これは月2回、第1金曜日と第3木曜日の15時から17時までの間、1人または1グループにつき、20~30分程度で話し合うことができます。これには希望者がかち合うことを防ぐため、

# 新入生の皆さん 入学おめでとう オフィスアワーの時間、学長と話し

学長秘書室木村さん(内線3004)に電話して、予約をすることが必要です。

驚きました。オフィスアワーに訪ねてきた男子学生、椅子に座るやいなや開口一番「学長の学生時代の恋愛について聞かせて下さい。」というのがありました。すっかりどぎまぎしてしまったことは言うまでもありません。こんな学生もいました。女子学生が3人そろってきて、「学長の趣味は何ですか。」コロコロ明るく笑いながら時間をオーバーして話してゆきました。また、ビデオカメラを持参して撮影していった学生もいました。中には、暗く沈んだ顔で、卒論の指導教員がうまく指導してくれないという学生がい

ました。学生が帰った後、学部長に電話して、それとなく様子を見てくれるよう依頼したところ、後日その学部長から「その教員に一般論として話をしてみました。」とのこと。その後しばらくして、その学生と大学構内で会ったところニコニコして「卒業できます。」と言っていました。

このオフィスアワーには、学業のこと、アルバイトのこと、就職のこと、駐輪場のこと、トイレのこと、クラブやサークルのこと、友人関係のこと、家族の病気のこと等、種々な話をもてきます。

嬉しかったのは、スポーツ大会で入賞したといってカップと賞状をもってゾロゾロと学生が見せにきてくれたときのことです。中には、立派なスーツを着てくる学生がいます。いつものジーパン姿で来て下さいといっています。

オフィスアワーは、学生に限らず本学構成員が、とにかく学長と話をするための自由な時間です。何か問題がありましたら、ひとりで考えこまないで、ぜひオフィスアワーを活用して話をしにきて下さい。

“学長懇話会”は、各学部の学生の代表2名が、毎月1回およそ1年間一堂に会して学長と懇話する会です。

学生の選出方法は各学部に任されており、自選あり、他薦ありで、誰かにわけも知らされず指名されて懇話会に出席したという学生がおりまし



# どう。 てみませんか。

学長  
遠藤 正彦



たが、この学生はその後ほとんど皆勤で、積極的に発言していました。

この会での懇談の内容は、毎回テーマが事前に決められていて、当日それぞれ自由に発言します。テーマとしては、弘前大学の魅力、課外活動の活性化、弘前大学構内の美化、21世紀教育、構内駐輪場等々です。ここでの討論は熱のこもったもので、学生同士が討論のバトルをしたこともありました。そして時にはコンパもしました。

この学長懇話会では、ここに参加している学生が中心となって、全学生の討論会を開催したことが過去2回あります。学長懇話会の学生がテーマを決め、チラシを配り、自分らが集会の司会を行いました。学生はいずれも、1回目約60名、2回目約130名程度で、決して多い数ではありませんでしたが、極めて熱心に討論しました。

ここでの討論は、学生のフレッシュな意見として大学の施策の中に取り入れられたものが幾つかありました。学内駐輪場については、ずいぶん意見



を取り入れました。

“学長直言箱”は学内4ヶ所設置されています。文京町キャンパスは、学生会館の入口と事務局1階に、本町キャンパスは、臨床研究棟西口と附属病院事務室前です。毎月1回第4金曜日に学長室に運ばれ、学長により施錠がはずされ、学長により直接回収され処理されます。

投書用紙に書かれている内容はリタイプされ、時には学長により文章の手直しが行われます。これは、投書は記名でも無記名でもよいのですが、直筆の筆跡が他人の目に触れないように、また個人の文章の癖が残らないようにとの配慮からです。

投書の内容は、学長自ら対応できないような場合は、それぞれ担当理事、学部長、及び関係部課長に、字句の修正された文面が親展で届けられ、対応を求め、その対応の結果の報告書を提出してもらいます。学長の直接対応や関係部局等の対応結果や回答は、必要あれば学内広報誌・I N F Oに掲載しており、また直接関係した学部に掲示板に回答を掲示しています

実は、学長としてはこの直言箱に寄せられた投書の対応にかなりの時間がとられています。それはオフィスアワーのような屈託のない笑いではなく、深刻な内容を含んでいる場合が多いからです。例えば、教員の講義や、教員の学生指導や対応に対する不満、事務方の学生に対する対応の不満等

があるからです。勿論、教育のあり方や管理運営に対する建設的な提案も含まれています。でも中には、新聞か雑誌のコラム欄を切り取って面白いから読んで下さいというのもありました。確かに学生の行動のことが書かれていて面白いと思いました。

この直言箱の投書の内容からみて、オフィスアワーで話をきいた方が良いと。幸い記名されていたので連絡して来ていただきました。構内の美化について確かに良い考えを持っていました。

学生さんの中には、投書した結果、投書者としての自分の名前が知れ渡ることを恐れているとの考えのあることを知りました。しかし、本学には“公益通報処理規範”があり、内部通告者すなわち告発者の秘密を守らねばならないという規範があります。したがって安心して、直言箱に大学を良くするための様々な投書を、積極的に入れていただきたいと思います。学長は秘密を守ります。

その他、学生は学内外の種々な場所で遠慮なく学長に声をかける権利をもっていると考えて下さい。学長と話をすることは、楽しいことは一層楽しくなります。困ったことには必ずしも解決策が見いだせないかも知れませんが、それよりも問題を学長と共用したという実感が、問題の解決に一歩前進することになるかも知れません。

学長オフィスアワー、一年を通しての学生と学長の懇話会、そして学長直言箱を、同時に実施している大学は、全国的にみてもおそらくないそうです。平成18年度実施された、大学管理運営を始めとする事項の学外者による評価である“国立大学法人認証評価”でも、この学長オフィスアワーと学長懇話会と学長直言箱の実施が、非常に高く評価されました。

来週のオフィスアワーに、あなたも友人を誘ってきてみませんか。学長の青春時代の秘密が聞かれるかも知れませんかよ。



## Ⅱ 特集「がんばれ新入生」



### 主体性のある人間に

人間文化課程  
1年  
山田 菜穂

弘前大学に入学してから、既に二週間が経ちました。

この弘前大学は、高校のころの私の第一志望の大学でした。その大学に合格できて私は多くの希望を胸に、入学式を迎えました。しかし大学生活は私の想像をはるかに超える忙しさでした。

第一の苦難は初めての一人暮らしでした。18年間親と暮らしてきて、今まで私は炊事や洗濯、掃除など身の回りのことは全て親任せにしてきました。一人暮らしである今は、それらのことは全て自分でしなければなりません。また、家に帰っても「ただいま」と言える相手、そして「おかえり」と迎えてくれる人がいないのは精神的にも辛く、何度も家に帰りたくとじけそうになりました。

第二の苦難は、慣れない大学の制度に戸惑ったことでした。高校生の時は朝のHRで担任がなんでも連絡をしてくれま

したが、大学では自主的に掲示板を見て動いていかなければなりません。またキャンパス内で迷子になることも何度もありました。

今まで私は物事を人に決めてもらうことが多くなんでも人任せにしがちで、いまいち主体性に欠けていたように思います。ですから今の私の目標は、「自主的に動ける人間になること」です。

この弘前大学でたくさんの人と関わっていく中で、学問の面はもちろん、人間的にも大きく成長できればと思っています。



### 日々を楽しむ

人間文化課程  
1年  
續橋 篤志

本格的に授業が始まり、大学生活もいよいよ本番となりました。未だに高校生気分が抜けませんが、一人暮らしの始まりと共に何事にも責任を負わなければならないので、今までなかった緊張感に包まれながら生活しています。一人暮らし

しは、朝起きるのと食事を作るのが辛いですね。

大学生活では、高校ではできなかったさまざまなことに挑戦したいと考えています。せっかく弘前大学に入学できたのですから、興味がある講義をすすんで受講して自分の知識を増やし、多くの人々との交流を通して、自分の世界を広げていきたいと考えています。数多くの講義、サークル等興味は尽きません。とは言っても、まだ入学して日が浅いので、弘前という土地にゆっくりと慣れて

いくことから始めたいと思っています。桜を見て、ねぶた祭りを見て、福島何倍も降る雪を楽しみながら、良い大学生を送りたいです。

この4年間は、日々の生活を楽しむことに力を入れたいです。ただ流されるように毎日を過ごしていた高校生活とは違い、刺激的な毎日を送れるよう興味あるものには貪欲に挑戦したいです。一日一日を楽しまないと、良い人生なんて送れないと思います。一度しかない人生、精一杯楽しみたいです。



### がんばります 新入生

人間文化課程  
1年  
太田 歩

私が弘前に来て20日ほどが経過しました。本日無事履修登録を終え、すべては滞りなく…しまった、駐輪場利用の申し込みしてない。しばらく登校は歩きになる模様です。

履修登録。それは大学生になったと感

じる瞬間。いままでは決められた時間割を渡されて、何の疑問も無くそれに沿ってやってきたのに、自分で組むというのは不思議な感じがします。これからは未履修問題も自分の責任です。とりたいたい授業に限ってぶつかるのはなぜですか、と泣きそうになりながら時間割を決め、いざ授業へ。

ジャン・レノに憧れてとったフランス語にさっそく苦しめられる私。Rってどうしたらその音が出ますか、先生。しかも脳内でギリシア語と混ざりそうです。スポーツ実技で筋持久力のなさに気づ

き、しかも翌日大いなる筋肉痛。柔軟性には多少自信があったんですが、先生、それだけじゃだめなんですか。単位取れるか、いまから不安な気もするわけです。でも、それでも楽しい。高校までと違って、興味のあることを選んで学べるからこそだと思います。でもきつと勉強に限らず、したいことを実行できるのはこれから。この4年間でどう過ごすべきか、今とても贅沢な悩みが私を困らせています。



## スーツ

人間文化課程  
1年  
有田 泰隆

「どーなってんだ!?オレ…。」  
卒業時の自分を想像しようとして出た結論がコイツです。  
大学生になってまだ1ヶ月。4年後の自分などわかるはずありません。ただ、スーツの似合う男になっていた

なあ、漠然とそう思っています。  
スーツの似合う男というのはスタイルとかの問題ではなく、もっと体全体からにじみ出ている風格だとかたかまじさがあって初めて似合う人のこと。例えば僕みたいな新入学生や高校生がどんなにビシッとブランドモノのスーツを着てキメていようが、現実はずたづたのスーツを身にまとったオジサンの方がどういうわけかしっくりくるもんなんですよ、これが。  
大学生活では様々なことを経験した

い。しんどいことなら尚更格闘してみたい。睡魔と戦いながらテスト勉強をしたり、多くの人との出会いと別れをサークルで経験したり、バイト先では自分のミス先輩に怒鳴られたり。ほんの少し憂鬱に思える生活を繰り返すことになるのかもしれませんが、その分腹を抱えて笑えるような楽しいことも多いはず。  
社会の厳しさの端っこに触れているうちに、4年後には僕でもちょっとはスーツの似合う男になっているのかもしれない。



## 目的意識

現代社会課程  
1年  
佐藤 貢

私は音楽が好きで、高校の時からバンドを組んで歌ったり、演奏したりしていました。  
しかし、私の高校には軽音部は無かったので、活動するときには個人で活動す

るしかありませんでした。ですが、この弘前大学には多くのバンドサークルがあり、早速私もその中の一つに入りました。高校の時以上にバンドができると思うと今から嬉しくて興奮します。  
ですが、当然のことながら、バンドをしに大学にきているわけではありません。  
それでは、自分にとって大学にきている「本当の目的」とは何なのでしょう。それはきっと一人一人によって違うと思います。私の場合は、「自分を高める

為」です。  
大学は今までの学習環境と違い、自らが積極的に学ぶ姿勢でいなくてはならないと聞きました。だからこそ、自らを高めるには絶好のチャンスだと思いました。  
今までとはほとんど全てといっても過言ではないほどの変化をした環境の中で、自分自身の「目的意識」を忘れないように、私は目の前のことに全力で取り組んでいきたいと思っています。



## 大学生生活に馴染むまで

現代社会課程  
1年  
鳴瀬 由華

弘前大学に入学して2週間が経ちました。授業もだんだん本格的になってきました。  
一コマの授業時間が90分、これはなかなか慣れないものです。時間割を自分で組むことも初体験で友達に何度も確

認しました。大学生生活の私の印象では、自由でのんびり出来るものだと思っていましたが、実際電車で青森から通っている私にとって、早起きするなど少しきつくて朝なんかはのんびりなんてしてられません。  
今、一番楽しみなことは、友達とおしゃべりすることです。入学式のときから、できるだけ隣の人に話しかけて友達を作ろうとしています。弘前大学は県内のみならず北海道、東北など全国から集まっています。方言についての話題はとて盛り上がります。よく使っている

言葉が通じないなんて戸惑ってしまうことが多々あります。いつかは他県や他地域の方言や訛りを吸収して是非使ってみたいものです。  
大学生生活はほとんど自己責任です。自分から行動を起こさないと誰も手助けはしてくれません。  
4年間はあっという間に過ぎてしまいます。私たちは弘前大学に目標を持って入学しました。その目標を達成させ、また新たな目標を立て、充実した4年間にしたいと思っています。



## 驚きと期待

経済経営課程  
1年  
大室 聡史

弘前大学に入学してから約三週間が経ちました。この三週間は今まで自分が経験したことのない事の連続でした。特に親元を離れて初めての一人暮らしでは、身の回りの事を全て自分自身でしなければならぬという事の大変さに気がきました。また、様々な地域から集

まった友達や年上の人達と話す機会があり、その度に「そんな考え方もあるんだ。」と気づき、自分の視野が広がっていく感じがしました。また、高校とは大きく違う点として、授業を自分で選択する事ができ、自分の学びたい事を学ぶ事ができます。そのため、間違った選択をしないように気を付けなければなりません。それに初めてのレポートではとても苦戦し、早く慣れなければいけないと思いました。  
これから四年間の大学生活が待っているのにもかかわらず、たった三週間だ

けでもこんなにも沢山の事に気づき、そして驚いています。そのため、四年間の間には様々な出来事が起こると思います。  
しかし、大学の四年間はあっという間に終わってしまうと高校の先生から言われました。この四年間(もしかしたら長くなるかもしれないけれど)を無駄にしないためにも僕は一日一日を一生懸命過ごし、常に新しいことに挑戦して、少しずつ自分を形作っていきたく思います。



学校教育教員  
養成課程  
小学校教育専攻  
1年  
**大城 花子**

## 大学生活が始まって

弘前大学に入学して約一ヵ月が経ち、新しい環境にも大分慣れてきました。大学と高校との違いで一番感じたことは、やはり授業の行い方です。自分で考えていたよりもかなり違っていてとても驚きました。大学の授業は授業というより

も魅力的な講演会を聴いているような感じになる授業が多く、興味深い話がたくさん聞け、とても面白いです。教育学部なので専門の授業では学生からの視点だけでなく、教師としての視点から見るような授業もあるので、今まで感じたことのない、なんだか不思議な感じを持つことがあり新鮮です。小学校で習ったことの裏にはこんな考え方や原理があったのか…というように新しいことを学びながら、当時は興味がなかったことも今になって興味がわいてきたりも

しました。

まだ入学して間もないですが、大学では自分が積極的に行動すれば色々なことが経験でき、色々な人と交流することができるということが分かったので、興味のあることには積極的に参加しようと思います。これからの大学生活、授業にしても課外活動にしても自分から進んで行い、学び・経験したものはできるだけ多く吸収していきたいです。



学校教育教員  
養成課程  
中学校専攻  
1年  
**川村 吉**

## もっと知りたい

4月からの大学生活。岩手県から越してきて、環境が大きく変わった。まだ右も左もわからない状態で毎日が冒険のようだ。初めての一人暮らしで何かと不安はあるが、今何をすべきかわかりと見失わないように日々を過ごしていきたいと思う。そのためにも、早く生活習慣を確立しなければならない。そうは

いうものの、まだ部屋の中は荷物だらけ…。

去る3月23日に母校の離任式があった。転任される学年長の先生は「人に指示されて動くだけではこれからの世の中は生きていけない。自分自身で考えることがもっと必要だ。」と壇上で述べられた。

確かに、今までは「あれをやれ。これをやれ。」と何かと指示されて行動する場面が多々あった。与えられた課題を言われるままにこなし、それだけで満足していた部分もある。しかし、大学生となった今、確かな自分を築くためにも、

もっと貪欲になって世の中のことを知っていこうと思う。一般常識や教養といったものを普通と呼ばれる程度に身につける意味でも多読する。

私は知らないことをはじめて知ると、何だか嬉しくなる。言葉にするのは難しいのだが楽しい気持ちになる。なんか得た気分—といったところだろうか。物事を知っていて損をすることは無いと思うので、どんどん知識を吸収し、自分で考えられるようになりたい。そんな気持ちを常に持ち続け、大学生活を送りたいと思う。



学校教育教員  
養成課程  
障害児教育専攻  
1年  
**石橋 美歩**

## これからの4年間に向けて

大きな期待を持ち弘前大学に入学してきました。しかし、知らない土地、知らない人の中で生活していくことは不安でいっぱいでした。入学式の後の障害児教育専攻のガイダンスで、私の不安は少しずつなくなっていきました。楽しく

笑って過ごせる友達と何でも優しく教えてくださる先輩がいたからです。そのおかげで、学校生活を楽しく始めることが出来ました。

私は特別支援学校の教師として将来働きたいと思っています。その夢に向かって少しずつではあるけれども、より高い学力を身に付け、より良い人間関係を築いていけるように頑張っていきたいと思っています。サークルなどの活動やボランティア活動にも積極的に参加したいと考えています。その活動を通し

て学校の中だけでなく人間関係を広げていきたいです。

今は授業も始まって、徐々に忙しい日々になってきています。時間も90分で高校までとは全く違う授業でまだまだ慣れませんが、一つ一つしっかりと知識にしていきたいです。

障害児教育専攻の1年生17人で少ないけれども、みんなで仲良く一緒に頑張っていこうね。先生方や先輩方には迷惑をかける事が多いと思いますが、これからもよろしくお願ひします。



養護教諭養成課程  
1年  
**石塚 愛実**

## 今抱いている疑問

私の今の目標は、学業に励み、小学校時代の恩師のような養護教諭に一步でも近づくことである。私の恩師は救急処置が上手いだけでなく、子どもの気持ちを受け止めることに努め、保健室をより親しみやすい空間にしようとする

していた方であった。

私はこの課程で、大きく言うと「養護教諭とは何か」、「自分の就きたい養護教諭の仕事は、他の教員とどのように違うのか」を理解するために学びたいと思っている。私は、養護教諭は他の教員と比べてかなり独特な存在であると思っているが、それは、生徒に対して評価をせずに、ありのままを見ようとする姿勢からきているのではないかと思う。

この課程に入って期待していることは、養護教諭と他の教員の違いを知るこ

とで深い興味を持ち、養護教諭にしかできないこと、養護教諭だからこそできることを専門科目で学び、それを実現するスキル等を獲得して、きっと養護教諭としての自信をつけることができるに違いないということである。

これからの四年間、私は同じ目標を持つ仲間と互いに切磋琢磨し合って積極的に学び、将来の夢と自らの人間性を深めつつ、今抱いている疑問を明らかにしていきたいと思う。





## 私の抱負

生涯教育課程  
健康生活専攻  
1年

垂石 梢

入学して数週間がたちました。まだまだわからないことがあり戸惑うことがあるけれど毎日充実しています。

私はこの4年間でひとまわりでも多

く成長させたいです。私の夢は健康運動指導士です。健康運動指導士は人々の健康を管理する職業です。健康運動指導士になるためにさまざまな努力をしています。まず勉強をがんばりたいです。健康や運動についての知識を身につけたいです。また高校時代とはちがいが自分の好きなことをより多く学ぶことができます。たくさんのごとに興味を持ち勉学にはげみたいです。部活動は柔道部

に所属し大会で数多くの成績を残したいです。私は今まで3回個人で全国大会に出場しました。しかしいつも1回戦で負けてしまい悔しい思いをしました。技を磨き全国で勝てるようになりたいです。

健康生活専攻は16人でとても少ないです。一人ひとりとたくさん交流し、充実した4年間を共に過ごしていきたいです。



## 二十人二十色

生涯教育課程  
芸術文化専攻  
1年

勘林 登貴子

私たち芸術文化専攻の新入生は二十人二十色。原色からパステルカラーまで色々。でも、どの色も、色があせたり、色が消えてしまふことはないだろう。ときには重なり合い、ときには融け合っ

て、きっと色々な美しさや味わいが生まれてくるにちがいない。たがいに切磋琢磨してゆくうちに、もっと深みのある色になって、どんどん美しい光を放ってゆくだろう。



## 大学生活が始まって

生涯教育課程  
地域生活専攻  
1年

室 紺 義孝

私が弘前に来て早数週間、来たばかりのころは将来への希望と、知らない土地への不安でいっぱいでした。ただ私は下宿だったのですぐ友達できました。また、Welcomeパーティーで入学前には、たくさんの友達できました。入学後は同じ学科の友人もでき、今では不安が日

に日になくなってきました。大学での勉強も始まり、今でも戸惑いを感じながら授業を受けています。例えば、90分授業の長さ、専門科目の複雑さなどなど例をあげればたくさんあります。しかしそこは、友人や先輩のアドバイスのおかげで少しずつではありますが、徐々に分かり始めてきました。さらに、大学生活で感じたことは、先に述べたことと重なりますが、人との出会いが非常に多いということです。多くの人と出会うことで、他の土地のこと、その人の物の考え方、人生観が見えてく

るので、自分自身の考え方や価値観が変わってきていい刺激になっています。このような感じで一日一日を過ごしていますが、この一日一日が私の将来の目標である教師への道の第一歩だと感じています。現在教員採用が厳しい世の中ではありますが、しっかり自分の目標を見失うことなく、この弘前大学の学生であるということを感じ、学業は勿論のこと、サークル活動や私生活も充実させ、大学生活4年間を有意義に過ごしていきたい、人間としても成長させていきたいと思っています。

### 先輩から



## がんばれ新入生

学校教育教員  
養成課程  
障害児教育専攻  
4年

佐々木 佑

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきたでしょうか。大学は高校までと違って、授業にしても生活にしても自己責任が問われる部分が多くなる僕は感じているのですが、僕と同じようなことを新入生の皆さんも感じているのではないのでしょうか。

大学で必要なことは自分の考えをしっかりと持って行動することだと僕は思います。高校までは人と同じにすれば

いいやという考えでも通用しますが、大学は将来に直結する時期であり、高校までの考え方では自分のためにならないように僕は思います。しっかりと自分を持った大学生活を皆さんには送ってもらえたらいいなと思います。

話は変わりますが、これまでの大学生活を通して僕は様々な面で成長できました。学業の面での成長もありますが、人間として大きく成長を遂げることが出来たように思います。このような成長ができたのは学祭本部実行委員会というサークルに所属していたおかげです。学祭本部実行委員会は、秋の弘大祭に向けての準備や当日の運営を行っています。教職員の方々や企業の方々と接する機会が多く、礼儀が身についたように思

います。また、同じ目標を持った人間と目標に向かって努力をしたことで感じることもできる達成感は何ともいえないものがあり、そこから協力の大切さを学ぶことが出来ました。

このサークルで学んだことはまだまだ沢山あるのですが、僕の経験から、何かに打ち込めるといことはとても素晴らしいことであり、必ずや成長につながると思います。どんなサークルでもいいと思うので何かに所属し、学業以外にやりがいを感じられるものを是非皆さんにも見つけて欲しいと思います。

ふれーふれー新入生！！！！ふあいと☆

# 初心

医学科  
1年  
今井 朗

この4月に医学部医学科に学士編入で3年に入学致しました今井朗と申します。私は、工学部を卒業後、食品メーカーで5年間勤めて参りました。学士編入の同期は、私のように会社に勤めていた方、研究所で研究をされていた方、薬剤士をされていた方、海外

の大学を卒業された方など、本当に様々なバックグラウンドをもった人々が集まっています。それぞれの分野の専門家が近くにいる中で医学を学んでいけることは本当に心強く、また各々の相乗効果で強力なパワーを生み出すのではないかと今肌で感じています。

一方で弘前大学は学びたいと思う人にはそれだけ学べる雰囲気もあると感じました。いざどのような時でも救命ができるようにと救命救急の技術を身につけていく活動を

行っているところもあれば、地域医療実習に入学早々見学させて頂ける機会が与えられたりと、講義を超えて学生のうちから実践的に医学を学んでいけると感じました。

私は受験の時弘前に来て、夕日が沈む岩木山を見て心からこの街が好きになりました。このような、学問を学んでいくのに絶好の環境を与えてくださったことに心から感謝し、そして初心を忘れず、将来人々に感動を与える仕事ができる人材になれるよう日々学問に励みたいと思います。

# 弘前にもあったんだ

医学科  
1年  
前田 高人

僕が描いていた未来予想図は、ある雪の日に駅のプラットフォームでギターを下げながら、見送りにきた仲間たちに「男はギターとタバコさえあればいい」と言って、東京行き

の新幹線に乗っていくところから始まる、壮大な上京物語でした。しかし現実、上京どころか南下もせず、むしろ北上してしまって、これからこの弘前という町に住むことになってしまいました。こんなことを言っていると、僕は望まれずして弘前に来てしまったように感じるかもしれませんが、実際弘前で暮らしはじめて思った驚き、喜び、嘆きなど、僕に刺激を与えたことがたくさんありまし

た。たとえば、先輩方の新入生に対する歓迎ぶり！

新入生のためにあんなに市民会館に集まってくださったり、愉快的催しを開いてくださったり、ご飯をおごってくださいたり……。こんなにただで歓迎されたのは初めてです。これからこの地で六＋X年、知識だけじゃなく先輩方のように心の広い人間になっていきたいです。都会に負けずに。

## 先輩から



医学科  
5年  
石原 佳奈

# ご入学おめでとうございます

新入生のみなさん、弘前大学へのご入学おめでとうございます！！新しい生活にもだいぶ慣れてきたころでしょうか？ 私が入学したのはもう4年も前のことなのですが、今でも新しい生活、新しい出会いに心躍らせて毎日を楽しく過ごしていたことを鮮明に覚えています。今回は新入生のみなさんへ応援メッセージということで、私の今までの学生生活を振り返って書かせていただきたいと思っています。

突然ですが、みなさんは、弘前大学に入って何がやりたいですか？ 学部もそれぞれ、専攻もそれぞれあるかと思いますが、目指すものも十人十色あるかと思いますが、一方、まだ将来どうするかをまだ考えられない、という方もたくさんおられるかと思いますが、それはそれでOKです。でも、どんな方でも大学ではこれをやろう！！せっかくの大学生活なんだから！ というものは何かひとつはあるのではないのでしょうか？

それがあれば、ぜひぜひそれを実行に移すことをお勧めします。何にでも当てはまるのですが、まずは動くことから始まります。そこから新たな発見があり、視野が広がり、そして新たな出会いが生まれます。そ

して何よりも自分の成長が手にとるようにわかります！『言ってることはわかるけど、自分にはそれが今のところないんだよねー』という方でも、少し自分のアンテナを敏感にしてみてください。少しだけでもいいから自分と向き合ってみてください。そうしたときに、『ちょっと面白そう、やってみたいな。』と心のどこかで思ったことには迷わず、恥ずかしがらず、勢いで突っ込んでみてください！ 自分自身にプラスになること間違いなしです！

私自身は部活やサークル活動を通して、自分の視野が広がり、物事の考え方、捉え方が大きく変わりました。また仲間やすばらしい出会いを通して、人として成長できたことも

実感しています。それは臆することなく突っ走って見たからです。まずは行ってみる。聞いてみる。そしてやってみる。ことが大切ではないかなと思います。大学生活は誰かが楽しくしてくれるものではありません。自分自身でつくっていくものです。そして、そのチャンスは実はすぐ隣にあるものなのです。これが大学生活4年間を通して感じた一番の発見です。

これを読んで、『明日何かしてみようかな。』と少しでも思っていただけなら幸いです。みなさんの大学生活が実り多く、人生の中で輝けるものになることを心から祈っています。



と  
一  
緒  
に。  
見  
届  
け  
る  
2006  
年  
度  
の  
国  
際  
医  
療  
研  
究  
会  
(  
タイ  
ス  
タ  
ー  
「  
パ  
ヤ  
オ  
セ  
ン  
タ  
ー  
」  
の  
子  
ど  
も  
た  
ち  
。



保健学科  
看護学専攻  
1年

山田 ゆき江

2007年4月3日。まだ肌寒い弘前の春に私は弘前大学に入学しました。会場前でのにぎやかなサークルの勧誘に驚いたのと同時に、「大学生になったんだ」

## 新入生の一言

と実感したのを覚えています。

私が大学に入り一番強く感じたのが「自主性の大切さ」でした。それが一番の高校と大学の違いだと思います。与えられたものだけやればよいという受身の姿勢は通じないのだと思い知らされました。また、進路が決まっているからこそ厳しいことも多くありました。前期から入ってきた専門科目はどれも難しく、

毎日が予習復習と慣れない家事で過ぎていきました。

入学して約1ヶ月。やっと大学生活にも慣れ、たくさんのお会いがありました。今は看護のアットホームな雰囲気がとても気に入っています。これからの4年間、自分の目標に向かって後悔しないように努力していきたいと思います。



保健学科  
検査技術科学  
専攻  
1年

鈴木 伸彰

多くの患者さんの一助となれるよう目指した臨床検査技師という職業の、本当に第一歩を今春踏みだせるようになりました。

地元出身でない私にとって、多くのこ

## “弘大での挑戦”

とに不安や驚きがありました。

今もまだ模索状態なことには変わりありませんが、少しずつ大学の生活に慣れてきました。その中で仲間もでき始めてきました。私達には国家試験という共通の目標があります。その共通の目標に向かって、仲間と肩をならべて勉強ができるということは、非常に喜ばしいことだと思います。

そして私は今まであまりやってこな

かった新しい部活やサークルに入っただけで、がんばりたいと思っています。新しいことに積極的に挑戦してみたいと考えたからです。

大学は高校とは大きく違うということに改めて感じています。それはある意味大きなチャンスであると思います。色々な活動の中で、Challengeしていく気持ちでありたいと考えています。



保健学科  
理学療法学専攻  
1年

宮村 裕紀

合格発表で自分の受験番号を確認してから入学するまで私には数々の試練がありました。

まず、部屋を決めるために父の車で夜中弘前へ来る途中-7℃の車内で寝る

## 新天地

ことになり、あやうく凍死しそうになったことです。その時はガストに駆け込み助かりました。神様、仏様、ガスト様です(笑)。

次は、入学手続きの書類が3月とは思えない悪天候で期限内に届かなかったことです。その時は学務部の方に何度も電話して、なんとか受け取ってもらうことができました。本当に感謝しています。

そんなこんなでなんとか弘大生になることができました。今では友達もたくさんできて充実した日々を送っています。大学では、理学療法士になるための勉強の他にも、人として社会に出ていくための一般常識や礼儀も学びたいと思います。この新天地弘前では、入学前以上の試練があるはず。それを乗り越えて卒業した時には、一人前の大人になります。





## 弘大の生き方

物理科学科  
1年  
高島 麻衣

弘大は都会！  
周りではみんなが標準語を話しています。  
生まれも育ちも弘前な私には、みんなの標準語オーラにやられてしまいました。  
「んだっきゃあ」と相づちを打っても、返事はナシ。  
濁点の多さに私の言葉が聞き取れず、首を傾げる友達。  
最初は私も標準語を話そうと思いました。  
しかし、津軽弁と標準語が混じりあ

い、すばらしいイントネーション。  
断念しました。  
そうこうしているうちに、周りの友達  
は津軽弁に慣れてくれるようになりま  
した。  
それに加え私も、標準語で話しかけら  
れても、純粋ななまりで返すことができ  
るようになりました。  
これからはこのなまりを広めていこ  
うと思います。  
  
言いたいことはもう一つ。  
私の学科は女子が少ないのです。  
42人のうち女子は6人。  
入学式後のガイダンスでは、すでに仲  
良くなったのか、2人の女子は楽しそう  
に話をしていました。  
私はその中に入っていけず、違う学科  
の友達や高校の時の同級生とガイダン

スを受けていました。  
それで、ガイダンスづくしの一週間は  
終わりました。  
しかし、授業が始まると、そうもいか  
なくなってきました。  
このままじゃいけない、と思いみんな  
に話しかけるようになりました。  
するとみるみる学科の女子たちと仲  
良くなることができました。  
そのほかにも、サークル活動に参加す  
ることにより、また違う友達や先輩と仲  
良くなることができました。  
そこで思ったことはただひとつ。  
——何事にも積極的にいくことが大  
切！  
とゆうことです。  
これから4年間、楽しいものとするた  
めに、積極的にがんばります。  
あっ勉強も(笑)



## 弘前大学に入学して

物質創成化学科  
1年  
玉田 隼也

平成十九年春、弘前大学理工学部物質  
創成化学科に入学できたことを、大変う  
れしく思います。  
僕がこの大学のこの学科を志したのは  
、二つの理由からでした。一つは高校  
二年生のときの専門家訪問でのこと  
です。これは大学の教授のようなその道の  
プロに会い、対談し、より一層興味や知  
識を深めるというものでした。「弘大は

自分にとって一番身近な大学だから」と  
いう理由だけでこれに参加した僕は、  
その時対応してくださった方からこんな  
言葉を聞きました。「数学や物理は1+  
1が2にしかならない。しかし化学は1  
+1が千にも万にもなる場合がある。誰  
にでも新しい発見をできる可能性があ  
り、誰にでも新しい物質を創り出すこ  
とができる。今後ますます発展する分野  
だ。」「化学は自分の得点源」としか考  
えていなかった僕は、この言葉を聞き  
化学に対し特別な興味を抱くようにな  
りました。  
もう一つの理由は、祖母の死でした。  
祖母は重いガンを煩い、様々な薬を使

い、ガンと薬の副作用に苦しみながら  
死んでいきました。その姿を見た僕  
は、将来薬の研究がしたい。効果が高  
く、人体に対し副作用の少ない薬を開  
発したい。そう思うようになりました。  
  
この二つの理由から、化学を専攻で  
き、将来の夢にも繋がるこの学科を選  
びました。今、入学してしばらく経ち、  
高校とは違う大学生活にも、新しい環  
境にも慣れてきました。なぜ自分が  
この学科を志したのか、自分の夢とは  
何かを忘れることなく、目標を持って  
日々の勉学に励みたいと思います。



## 自分に素直に

地球環境学科  
1年  
前田 恭佑

入学して、まだ間もありませんが、い  
くつか授業を受け、大学で生活してみ  
て感じたこと、考えたことなどをいく  
つか書いてみようと思います。  
最初は“空きコマ”についてです。高  
校時代と異なり授業と授業の間に空  
き時間が生まれます。基本的に僕は、  
二コマ空いたら家に帰り、一コマだ  
ったら大学構内で何かするというスタ  
ンスを取っています。ですが、その空  
きコマをどのように使えばよいのか、  
未だによくわかりません…。  
次に第二外国語についてです。今ま

は英語だけでマンネリ感があつたので、  
とても新鮮に感じます。僕はドイツ語  
で、初めて学習するのでとても難しく  
感じますが、楽しくやっています。し  
かし、最近、予習復習が大変なので早  
くも悩みの種になりつつあります。そ  
れでも日常会話ができるぐらいのレ  
ベルには、達したいです。  
その次はサークルについてですが、  
僕は「わどわ」という環境サークルに  
入っています。最初に“リサイクル市”  
という行事の反省会に参加したのが、  
皆が意見出し、時には熱くなって話  
し合っているのを見て、「大学生はや  
っぱり違うな」と素直に感心しまし  
た。このサークルで真剣かつ楽しく  
また、有意義な時間をみんなと一緒  
に過ごしたいです。  
最後に、勉強についてです。ある講  
義で先生に「大学は知識を増やす所  
ではな

い、考え方を学ぶ所だ」と激を飛ば  
されました。僕は考え方を学ぶ上  
で、いろんな体験が必要だと思いま  
す。いろんな体験をすることで、物  
事を様々な角度・視点で見ることが  
できるからです。大学ではこれができ  
ます。こう考えると、やっぱり先生  
の言っていることは正しいなあと  
思います。大学での一番の目的は  
勉強なので、気を引き締めて頑張り  
たいと思います。  
最後に抱負を。大学生活で僕は  
いろんな友達をつくって、いろんな  
事をしてみたいです。例えば、それ  
がみんなからバカにされるような  
ことでもいいです。自分に素直に、  
そして我が道を進みたいです。ま  
た、この弘前の地で、誰にも負  
けないぐらい良い思い出を作り、ま  
っすぐで人を思いやる立派な大人  
になれたらいいなあと考えていま  
す。





生物機能科学科  
1年  
菅野 貴文

なぜ弘前大学に入ったのか？皆、様々な理由があると思う。学問をするため、センターで失敗したから、リンゴが好きだからなど。自分は農学生命科学部生物機能科学科という、履歴書の学歴欄に小さい文字で書かなければ1行におさまらないくらい長い名前のところに入った。この学部では、広く言えば生物学をやる。これは、大変なことだと思う。例えば、自分が植物生理学を専門にしたとする。自分の研究が軌道に乗り、新たな植物ホルモンを発見した。そして、もし

それが高校の教科書に載ってしまったら…ただでさえ覚えるのが面倒な植物ホルモンがさらに覚えるのが面倒になるではないか！この前まで、受験勉強を困難なものにした様々な研究者たちを憎む受験生だった自分が、たちまち全国の受験生の憎悪の対象になってしまうのである。これは大変おそろしいことだから、受験生に迷惑な研究はやめちゃおう！

…というのは冗談で、大事なのは、何故自分は、入試問題に進化の問題を執拗に出題するスタッフが潜んでいる弘前大学農学生命科学部生物機能科学科に進学したのかということ。

決め手は、恩師との出会いだった。

高校の最後の実力テストでのび太くんと同じ点数をとって卒業し、知のストラ

ム街を彷徨していた。もちろん行きたい大学に行けるはずもなく、記念受験する羽目になった。そして、予備校に進学した。しかし、恩師というべき先生は予備校にいたのだ。その先生は、最初の授業でこう言った。「みなさんの胸にあるのは、これから自分はどうなるんだろうという心配とオッパイ…みんなオッパイはありますよ！哺乳類ですからね。」このとき僕は韻を踏むとはなかなかやるなあと感じたものだった。というはさておき、その先生の講義で、生物学をやってきたからこそ話せることや話から滲み出る生物に対する思いやりなどを拝聴し、すっかり啓蒙されてしまったのだ。その後、紆余曲折を経て今、弘前にいる。今、僕はウレシイ。生物学が勉強できるから。



農学生命科学研究科  
応用生命工学専攻  
1年  
秋月 貴光

私は弘前大学農学生命科学部応用生命工学科を卒業し、今年度から弘前大学大学院農学生命研究科に入学しました。大学院に進学した理由は単純で、自分の専門分野において、より深い知識と技術を学びたいと考えるようになったからです。学部四年生になって卒業研究を進めていくうちに、研究の楽しさと辛さの両方が分かってきました。研究とは基本的に辛いものであり、日々忍耐です。しかし、どんなに些細なことでも何か新しい発見をしたときの喜びは大きく、さらに研究を進めたいという探究心が生まれてくるのです。そこが研究の楽しいところであり、それがあから研究を続けることができると思っています。ですが、どんなに些細な発見をする時でも根底に

## 大学院に入ってから抱負

は専門的な技術と知識が必要であり、その下積みがあるから新しいということに気づくことが出来ます。私はもっと新しい発見をして、さらなる喜びを感じたい、そのためにもより深く専門的な知識と技術を学びたいと思い、大学院に進学しました。

これからの抱負はまず、いうまでもなく研究に力を入れることです。私は卒業研究のテーマを引き続き大学院で行うことになったので、大学院に在学している2年間、専門的な知識と技術を学びながら、さらにそのテーマを突き詰めていき、新しい発見をしつづけていきたいです。些細な発見も研究を続けていく上で重要なことですが、大学院に進学したからには、もっと大きな科学的にインパクトのある発見の一つは成し遂げたいと思っています。そして、一報でも論文を出して卒業していきたいと考えています。

大学院で学んだ専門的な知識と技術を学生のうちに活かすことは重要で

が、卒業し、就職してからせつかく学んだ知識や技術を活かさないのは非常に勿体無いと思います。専門的な知識と技術の役立つ職に就くということも大切かもしれませんが、専門的知識を社会に出てからどのように応用できるか、学生のうちから考えておくことは出来るはずで。また、大学院に在学している間、専門的な知識だけに固執するのではなく、同時に広い視野で物事を見る力や社会に出てから通用する教養も身に付けていき、さらに今日の社会において重要なプレゼンテーション能力も学会発表などを通じて身に付けていきたいと思っています。2年間の大学院生活の中で専門的なスキルを学ぶとともに、このような社会に出てから必要なスキルを学ぶことも頑張っていきたいことの1つです。以上のようなことを念頭に置きながら、充実した大学院生活を送っていききたいと思っています。





## 先輩から

# 「(大事なこと)=(思い切ること)」

地域環境科学科  
4年

高杉 隆太

4年目の弘前。入学したての頃は何もかもが新鮮で、困ってしまうこともしばしば。どこに何があるのかさえ分からず、最初の1ヶ月間はただ「大学の生活に慣れること」を目標に学校に通っていました。

あれから3年。学校の生活にも慣れ(?)、学業・プライベート共に充実した生活を送っています。多分、「大学生活で大事なこと」に対する自分なりの見解を持ってたことが、充実した生活を送れている理由ではないかと思っています。

そこで、私の考える「大事なこと」を、現在困っているかもしれない新入生の皆さんに、激励の意味も含めてこれから述べ

ていきたいと思います。

タイトルにもなっていますが、私の考える大事なことは、「思い切ること」です。どのようなことかと言いますと、「何事も思い切って行動すること」ということです。

例えば、初めての授業で、周りはみんな知らない人ばかり。その場にいるのが辛くなったりしていませんか?その時は思い切って隣の人に声を掛けてみましょう。新しい交友関係が築かれ、その授業が楽しくなるでしょう。21世紀教育は、その絶好の機会です。是非いろんな人に声を掛けてみて下さい。

あと、朝起きるのがキツイ。1コマなんて無ければいいのに・・・って思っていますか?確かに朝起きるのは大変です。私も4年生ながら朝は苦手です。ですが、泣き言をこぼしていても1コマは無くなりません。頑張って起きなければ、こんな時も、実は思い切ることが大事です。甘え

を捨てて、布団から出る思い切りの良さを持ちましょう。布団から出たら、水分とご飯を忘れずに。朝食を摂っている時間がないときは、最低でも飴を舂めましょう。糖分を摂ると頭が冴えて眠気が覚めますよ。

また、環境の変化で何もかも億劫になったり、自暴自棄になったり、自分が嫌いになったりしていませんか?そんな時は思い切って友達に愚痴を聞いてもらったり、家族に電話したりしましょう。自分の内に留めていては逆に疲れてしまいます。

このように、思い切ることは大学生活に慣れるための最短経路になっています。「大学入学して何ヶ月か経つけど、まだ友達があまりいない。」「1コマはどうしてもやめてほしい。」「何か億劫だなあ。」と思っている新入生の皆さん、是非思い切って下さい。・・・でも、違う方向に思い切らないで下さいね!!(思い切って学校休むとか・・・)

## 先輩から

# あなたのタラントは?



生物生産科学科  
卒業生

町田 悟

センター試験の準備をしていた冬のことであった。「これ、弘大からもらってきたぞ」と父が私に手渡したのは、国際交流センター(現在の留学生センター)に用意してもらった交換留学の資料だった。「TOEFLで規定の点数を満たせば授業料免除で留学できる?」「こんなにポロい話があるのか?」。実際ポロかった。父が渡した弘大の交換留学制度の資料は私の情熱をかき立て、弘大を第一希望にすることへの疑問を一扫した。特定の職種を志していたわけではないが、国際舞台で専門技能を生かした仕事をしたいという願いは当時も今も変わらない。

留学を目指し英語の勉強を始めたのは、入学直前の3月、二次前期試験合格発表の日であった。留学中の授業料免除のために、最低でTOEFL500点、高くても575点は必要だった。一年生の6月に受けた学内TOEFLで517点だったものの、TOEFL要求点の低い協定校には希望者が殺到し、一年生の私がはじき出されることは目に見えていた。安全圏の550点を目指し、夏休みを集中的に英語に費やした。私の勉強法は、日本語訳がついているTOEFLの問題集を解いた後、その英文を音読、直訳するというものだった。単調だったが、続けるしかなかった。一年生の10月には563点、日本を去る直前の二年生後期までにさらに34点のびていた。そして私はオタゴ

大学(ニュージーランド)で希望通り前期から専門科目の単位を取れた。ほっきり言ってポロかった。情熱があったから。

11月にオタゴ大学の後期試験を終えると、自分は何を求めて留学したのか突然わからなくなった。燃え尽きて3ヶ月間何も手につかなくなった。図書館で物思いにふけり、時間を無駄にする自分が嫌いになった。楽しいはずの長期休暇は私の大学生活で最悪の期間となった。過食症傾向になったし、一人で泣いていることすらあった。今思えば、あの時はノイローゼだった。将来何をしたいのかわからなかった。「海外で専門職?何のために?」。研究職に興味はあると気が付き始めたが、大学院に行く金などないし決め付けていた。ある日、数週間部屋を貸してやったマレーシア人(名をチョンという)が、大学院生に生活費をくれるというシンガポール国立大学について教えてくれた。その時、再び私の情熱に小さな火がつくのを感じた。日本に帰ってからもしばらく進路について悩んだ。転学科届けを出して撤回したこともある。自分が何をしたいのか散々悩んでいる間、あの情熱は段々大きくなった。それを追ってみようと思った。そのことが、海外の大学院を目指してGREの勉強を始めるきっかけとなる。次第にまた好きな自分に戻れた。研究と英語の勉強には飽きないばかりか、楽しくなる一方である。2年2ヵ月経った現在、英米の大学院も給料付きで合格したが、やはりシンガポール国立大学を選ぼうと思う。挑戦したい研究分野があるし、チョンを通して与えられた情熱が忘れられない。

新約聖書には次のような例え話が出て

くる。ある主人が家来に資金を預けて旅に出ることになった。それぞれの能力に応じ、一人目の家来には5タラント(古代ローマの通貨単位)、二人目には2タラント、三人目には1タラント預けた。主人が帰ってきたとき、一人目と二人目の家来は資金を運用し、更に5タラントと2タラントそれぞれ儲けていた。すると主人は喜び、彼らにもっと大きな仕事を任せた。三人目の家来は主人のことを恐れていたため、資金を全く運用せず地面に埋めておいた。主人は三人目の家来に腹を立て、彼が持っていた1タラントを取り上げ、合計10タラント持っていた一人目の家来に与えてしまったという。

この例え話から「持っている者は更に与えられ、持っていない者は持っているものすら取り去られる。」という言葉が生まれた。この話に出てくる主人とは神を意味し、タラントのつづりはtalentである。タラントとは文字通り才能や能力のみを意味するのだろうか。「能力に応じて多く持っている者が素直に使えば更に与えられるもの」だから、タラントとは能力をもちたらず情熱でもあると私は思う。チョンは神の遣いだったのだろうか。新入生の皆さんにはどんなタラントが与えられていますか?素直に使ってみたいと思いませんか?そのタラントがまだ具体的になくてもいいのです。周囲の人々には妄想と見なされてもいいのです。自分のタラントの目的がわからなくてもいいのです。自分ではわからなくても、タラントの目的はちゃんと用意されています。



### Ⅲ 各施設長挨拶



# 21世紀教育センター

がんばれ新入生—教員もがんばっています—

21世紀教育センター長 矢島 忠夫

21世紀教育センターはこんなところでです。

弘前大学では、すべての教員が、21世紀教育のどれかの科目を担当することになっています。それぞれの科目には複数の教員が参加し、その中から一人の科目主任が選ばれ、その集まりが21世紀教育センターのメンバーです。さらにその中から、領域ごとに代表が選ばれ21世紀教育センター運営委員会を構成しています。委員会の主な仕事は、21世紀教育をどのように実施したらよいか、どのように改善したらよいかなどを考え企画し、21世紀教育の実施を支援していくことです。

21世紀教育はこんなことを目指しています。

21世紀教育は、「教養教育」と言われ、「21世紀を生きるうえで必要となる基本的な力を養う」ことを目的とするとされています。「でも教養って何?」、「21世紀を生きるうえで必要となる基本的な力って何?」、多くの人が疑問に思っていると思います。たしかに、この問に最終的に答えられる人はいないでしょうが、たとえば、次のようなことが理解の助けになるでしょう。

経済協力開発機構(OECD)が行った「生徒の学力到達度調査」(Programme for International Student Assessment) (PISA)で、日本の生徒の数学や読解力が2000年から2003年にかけて、それぞれ1位から8位、8位から14位に下がったことが判明し、多くの人々が衝撃を受けたという出来事がありました。

この問題にも関連して、センターでは、昨年8月開催した弘前大学高大連携シンポジウムで、教育学部の郡千寿子先生にお話をいただきました。

そこで私たちが学んだことは、PISA調査で問題にされている国際水準の「読解力」(Reading Literacy)とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」だということでした。「読解力」と言っても、単に「文章を正確に理解する能力」ではなく、読み解いた内容を批判的に分析し、自分の思考のなかで発展させ、他の人が受け入れられるような仕方でも表現できる能力だったのです。これまでの国語科教育が「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった」とすれば、国際水準の「PISA型読解力」の向上を国語科教育の枠のなかだけで達成しようとしても、そもそも無理であるということです。

ここでもう一度、「PISA型読解力」が、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されていたことを思い出してください。その「書かれたテキスト」を、「経験される出来事」や「調査や実験で得られるデータ」にまで広げて見れば、それが、これまですでに21世紀教育が目指してきたことと基本的に違いのないことがわかる

はずです。そして、この目標を達成するためには、みなさん自身が、「効果的に社会に参加する」という視点に立って、専門科目や日常の活動も含め常に自分自身を育てて行く必要があるということもわかると思います。「自分を築いていく」こと、それが「教養」だとも言われています。がんばって下さい。私たちはそれを応援します。

教員もがんばっています。

「基礎ゼミナール」が、昨年度から「発表力・質問力等の総合的言語力の向上を図る」ことを重点課題としたのも、その一つの表れです。センターは授業の工夫をとりまとめ、分析した結果をすべての教員が共有できるようにしました。また、基礎ゼミにかぎらず、学生による授業アンケートの結果を分析し、問題があると判断されれば担当する教員に改善をお願いしています。毎年、FDワークショップとして合宿研修を行い、どうしたら目的にふさわしい授業を実現できるか、グループごとに競い合い批判し合いながら実際にモデル授業を設計したりするなど、改善のための諸活動も行っています。

十分でないことは確かです。そのためにも、教育は、教員と学生、学生と教員のコラボレーション、そういう視点を共有したいと思います。



21世紀教育フォーラム第2号  
FDワークショップ  
各グループが真剣に議論し  
作業している風景





# 総合情報処理センター

## 総合情報処理センター最新情報

総合情報処理センター長 深瀬 政秋

新入生のみなさん、こんにちは。そして、ちょっと時期遅れですが、この春のご入学は誠におめでとうございました。この文が皆さんの目にとまる6月は稲の穂もぐっと伸びる頃です。5月病にかかりかけた人はそれを見直し、そうでない人はそれに負けずに、がんばって下さい。勿論、私もみなさんからエネルギーをもらって努力精進する所存です。

みなさんと総合情報処理センターの接点は、センター2、3階の計算機実習室及びキャンパス内の各サテライトに設置の計510台のパソコンもありますが、センター1階にはみなさんが自分のパソコンを持ち込んで自由自在に使える環境があることを是非認識してください。この持込パソコンの許容は数年来の全国的な流れで、本学でも既に95%の学生がパソコンを持っていることから、必要欠くべからざる環境と云えます。それから、21世紀教育の情報の周辺もサポートしています。

皆さんが総合情報処理センターの設備を活用されて情報処理のスキルアップに励むことは大学全体のポテンシャルを高めることにつながりますが、念のためお願いしたいことはルールの遵守です。皆さんが使う教育用パソコンは、インターネットを介して世界に通じています。仮想社会とはいえ、インターネットは人間の営みに直結することから、知らなかったでは済まされない事態も起こり得ます。巨大化の一方、マルチメディアモバイルインターネットの浸透で形成されつつある国境のない仮想社会では、独自の現象が出現しています。電子商取引、e-Commerce、カード社会、電子マネーなどに代表される経済現象、IT化、電子政府などは正の効果ですが、セキュリティ、プライバシー、著作権侵害、コンピュータウィル

ス、盗聴、正規ユーザに対する外部からの攻撃が問題視されています。また、内部の違法行為として、正規ユーザになりすましてのデータコピー、流出があります。不正行為に対する規制として、個人情報保護法が平成17年4月に施行され、市場では金属製の錠前からUSBプロテクト、セキュリティチップまで出揃ってきました。弘前大学においてもセキュリティに関しては多重の取組みが展開され、情報セキュリティポリシーという条文が制定されました。そこには具体的な運用も記述されており、みなさんは良くも悪くも世界に向けて発信する権利を得ているわけですから、ルールと一流のマナーをいち早く習得し、実践してください。

総合情報処理センターの内容を簡潔に紹介するには、「名は体を表す」という慣用句に従わないほうがよさそうです。英語の公式名とされる“Center for Computer and Communications”も一考の余地有です。今日に至る過程で中身と外見にずれが生じたのかも知れませんが、とにかく、本学の計算機システム導入は、全国共同利用型大型計算機センターの設置に前後して、昭和42年4月に弘前大学計算センターが発足した時に始まります。当初の役目は、一部の学内研究者に対する高度な計算サービスを主としました。その後学内外ネットワークの整備に合わせて2回のシステム更新を経て、昭和60年11月には弘前大学情報処理センターに改組拡充されました。引き続き2回のシステム更新を重ねて、平成6年6月に弘前大学総合情報処理センターに改組拡充されました。この後の十年有余で実に4回の更新があり、計算機システムの機能分散化が進みました。平成19年2月に導入されたばかりの現計算機システムは、セキュリティに配慮した

ユビキタス環境の構築、e-Learningの充実、セキュリティの強化、教育・研究に関わる性能強化に配慮してあります。更に、表に表れない改良点として、省スペース、省エネ、メンテ作業の効率化、防振対策によるハード面での高信頼性などにも配慮されています。学内でコンピュータリテラシーの普及が進んだ現在、総合情報処理センターは、全ての学生教職員を含めた延べ1万人弱のユーザに不可欠の情報基盤として位置付けられます。

ネットワーク環境については、平成3年1月に学内ネットワークHIROINが稼働しました。平成14年3月には、16台の部局スイッチ、160台のフロアスイッチ、2台のファイアウォール、2台のウイルスゲートウェイ、1台の侵入検知システム、2台のネットワーク監視装置からなるギガビットネットワークが増設され、最大8Gbpsでの通信が可能になりました。しかし、すでに導入から6年が経過して、ネットワークトラブルリスクの増大が懸念されます。学外ネットワークについては、総合情報処理センターは平成5年に東北学術研究インターネットコミュニティTOPICの北東北地区のネットワークオペレーションセンターNOCとなり、この地区の学術教育研究機関など12ヶ所の接続を担当しています。さらに、学術情報ネットワークSINETのノードが総合情報処理センター内に設置され、インターネットの最前線に位置して、世界に向けた発信と交流手段が確立されました。平成17年10月には、弘前大学SINETノードの北東北地区に対する重大な責務、役割、活動の実態が評価され、処理速度が1Gbpsに増強されました。更に引き続いて、SINET3のエッジ拠点となります。是非、この立場を維持したいものです。





# 保健管理センター

## 大学生の教育に求められている幾つかの力

保健管理センター長 佐々木大輔

大学生にどのような教育を行うのが望ましいのかという議論の中で、幾つかの力が提唱されています。その中に文部科学省の人間力と経済産業省の社会人基礎力があります。また、コミュニケーション力(対人力)が大切ということも言われております。

平成14年8月に遠山文部科学大臣が、人間力戦略ビジョンを提唱しております。副題は新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成～画一から自立と創造へ～であり、目標は①自ら考え行動するたくましい日本人②「知」の世紀をリードするトップレベルの人材の育成③心豊かな文化と社会を継承・創造する日本人④国際社会を生きる教養ある日本人、の5つを挙げております。人間力とは何かというと日本工学教育協会の中の工学教育評価委員会では、人の力の人間的側面としての人間力を、①自己啓発・管理能力②協調性③積極性/意欲④国際感覚⑤倫理/責任感⑥経済感覚、としております。

社会人基礎力とは、平成19年3月に経済産業省が提唱しました。約1年間かけて経済界などから意見を集約し、審議しています。社会人基礎力とは、企業が職場で求める能力のことで、「学んだ知識を実践に活用するために必要な力」です。社会人基礎力の内容として、①前に踏み出す力(アクション)、主体性、働きかけ力、実行力②考え抜く力(シンキング)、課題発見力、計画力、創造力③チームで働く力(チームワーク)、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力を挙げております。企業では卒後に自社で新人社員を研修・養成するという余裕が無くなり、即戦力とな

る人材を求めているといわれております。社会人基礎力は即戦力の基になる力は何かを念頭においたものといえます。

弘前大学ではどのような力を重視しているのでしょうか。学則の冒頭に弘前大学の理念があるのですが、読んでいる人は少ないと思います。「弘前大学は、教育基本法にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者を育成することを目的とする」とあります。理念では応用的能力を展開することとなっています。応用的能力を重視していることが本学の理念の特長といえます。

その他にも、多くの「〇〇力」が提唱されているのですが、説明されないと判らないものが多いですね。学生にとっては、こんなに多くの力をつけるように要求されても困るでしょうし、教員にしても教育できるものでもありません。人間力、社会人基礎力の中の共通項はコミュニケーション力(対人力)です。お互いの意志疎通をよい関係で行う力、対人関係をうまく保つ力です。大学生の悩みを聞くと、対人関係によるものが最も多く、コミュニケーション力は簡単に身に付くものではなさそうです。

対人関係に悩みがあるときは保健管理センター(通称:ホケカン)を思い出してください。ホケカンではメンタルヘルスの支援を行っています。心療内科医と、カウンセラーがカウンセリングを担当します。悩みの中にくだらない悩みなどありません。ささいなことでも、重大に思えることでも、カウンセリングを受け

ようかなと思ったなら遠慮せずにおいでください。ホケカンには快適な相談室が2室あります。なお、カウンセリングは予約制ですので、電話か窓口で申し込んでください。

ホケカンは診療所の届け出を出していますので、身体面の支援も行っています。身体面で重要なのは定期健康診断です。受診義務があるとお考えください。また、応急処置やナースによる栄養相談、性に関する相談など様々な健康相談も行なっています。

平成12年に文部省は「大学における学生生活の充実方策について一学生の立場に立った大学づくりを目指して一(通称:廣中レポート)」を出しております。学生中心の大学運営と、人間形成の場としての大学であることを提唱しました。また、メンタルヘルス支援も身体面の支援も大学教育の一環と位置づけました。平成19年3月には独立行政法人学生支援機構から「大学における学生相談の充実方策について」が出されました。ここにおいても学生支援・学生相談は教育の一環であるとしております。大学では基礎学力、および専門的知識をつけることはもとより、大学というコミュニティは人間形成の場としてとても貴重であり、青春時代の大学生活はかけがえのない時間です。

新入生の皆さん、心身の健康は障がいの有無に関わらず、大学生活を送るうえで大切なものです。これからの弘前大学における学生生活が充実したものであるように祈念します。



# 国際交流センター

## 新「国際交流センター」

国際交流センター長 倉又 秀一

「国際交流センター」と聞いて、「えっと」思う方は、1999年7月に学内措置で作られた国際交流センターを覚えていた方です。その国際交流センターは、2003年4月に省令施設の留学生センターとして、教員定員もついて生まれ替わりました。さらに、本年4月国際交流センターとして、再スタートを切りました。この新生「国際交流センター」を紹介します。

昨年3月に突然転出した教員の後任補充人事として、9月に、タイのマヒドン大学大学院起業学科で経営学を教えていた大西先生を迎えました。新しい人材を迎えたことを機に、センターの体制の検討を始めました。構想の大体の絵が描けた頃、学内の共同教育研究施設に対し、それぞれの将来構想を提出するように求められました。このような過程で生まれた新構想案の新しい国際交流センターは次のようなものです。

まず新「国際交流センター」の主な対象を次の4つとしました。

**学生 教員 職員 地域** の4つです。

学生については、これまで、旧「留学生センター」の活動の中心でした。留学生を受け入れ、弘大生を協定校へ留学させることです。弘大生の留学がしやすくなるように、英語語学研修でも授業料不徴収で受け入れてくれる協定校を増やしたり、コースの授業料を弘大生には割引してもらう制度

を設けてもらうことをしてきました。(協定には学生を授業料不徴収で相互に受け入れることが謳われているが、集中語学コースは正規の授業コースでないので、英語圏の大学では不徴収の対象にしない大学がほとんど。)あるいは、半年の有料の語学センターで学べば、残りの半年を授業料不徴収で正規授業を受けられる特典を弘大生には与えられるようにしてきました。

また、協定校とは相互主義が基本で、受入れの学生数と派遣の学生数はバランスを取る必要があります。従って派遣するためには、受け入れなければならない、協定校の学生にとって、弘前大学が魅力的で留学をしようという気を起こさせなければなりません。そのために、日本語教育のレベルの細分化や、英語で行われる国際交流科目の充実を行ってきました。これらには、各学部の教員の協力を得ながら、センターの専任教員が中心的な役割を果たしてきています。国際交流科目については、協定校以外の学生も、ホームページを見て弘前大学に留学してくる学生も出てきました。そういう学生は科目等履修生として授業料を払って勉強しています。さらに、国際交流科目を充実させ、弘大生が留学生と共に机を並べて勉強する環境をつくるためには、各学部の教員の参加を更に増やすと共に、国際交流科目の単位認定についても検討する必

要があります。

その結果、協定校との間の学生の受入れ派遣は、グラフ1に示されているように、増加をたどっています。

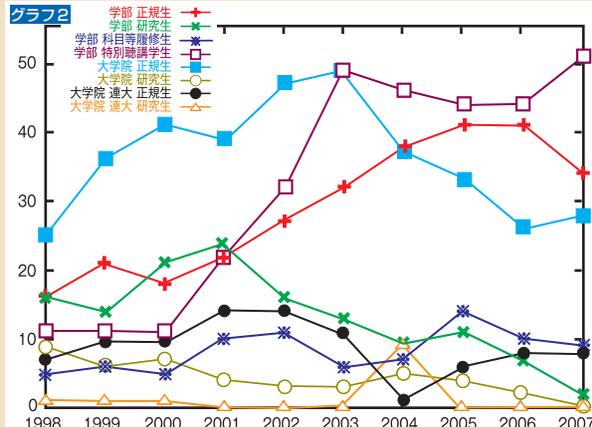
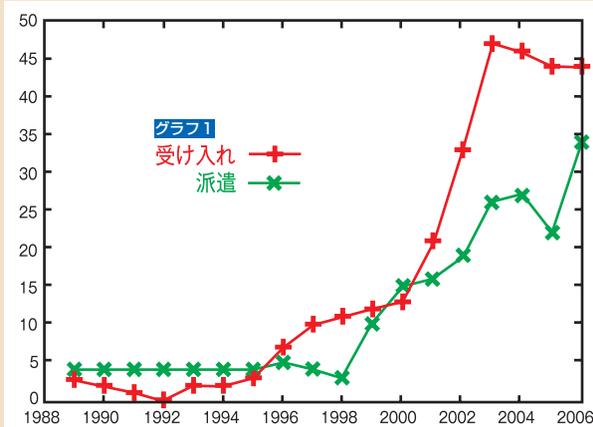
しかし、協定校からの「特別聴講学生」の増加に対し、学部、大学院の正規生数や、その予備軍ともいべき研究生や科目等履修生、聴講生の年次推移は必ずしも期待通りではありません。この様子はグラフ2に示されています。これら正規生の増加を図ることは、センターの大きな仕事の一つと位置づけ、検討をしておりますが、学部・研究科との協力も必要です。

また、タンデムという制度を設けており、留学生と弘大生がペアを組んで、お互いに教え合うことが出来る場合があります。詳細は国際交流センターのホームページを見て、ぜひ参加してください。

### 教員に対して

研究上の国際交流については、教員のイニシアティブが重要で、センターが特にできることは少ないと思います。ただ、協定校との交流については、情報提供などお手伝いできることはあると思います。

これまでも、UTMとハルビン師範大学との教員交流は行われてきました。これは、貴重な機会を教員に提供していますが、その時だけの交流に終わらずに、交流が続く工夫も必要だと思います。



### Ⅲ 各施設長挨拶



協定校の延辺大学のように、学生交流だけでなく、教員の交流を希望している大学もあるので、弘前大学の状況を考えながら、協定校との教員交流の拡大を図ってゆきます。

#### 職員に対して

これまで、特別なことをしてきませんでしたが、UTMへ語学研修をする時に、向こうの大学の組織や事務の仕事研修する機

会が得られるようにすることができると思います。また、留学生課で仕事をしながら、語学力や国際交流に対する感覚を伸ばしていくこともできると思います。さらに海外での留学フェアなどに職員の方が参加する機会を作ることも重要だと考えています。

#### 地域に対して

地域のイベントに対し留学生に参加して

もらうとか、センター独自の「ホームビジット」により、地域と留学生の交流をお手伝いしています。ホームビジットは、1年しか滞在しない協定校からの留学生を1ヶ月に1度くらいの頻度で特定の家族と会う機会を持つものです。この制度に参加していただいているご家族に感謝すると共に、さらにこのような形で留学生と交流をもちたいと希望される家族は、国際交流センターへ連絡をお願いいたします。

また、研究面での国際交流をいかに地域に結び付けるかは、これからの課題です。

以上のように新たな活動を含め、弘前大学の国際交流全体の中心になる意味をこめて、国際交流センターとして生まれ変わりましたが、学生教職員の、参加協力をお願いいたします。

国際交流センター

International Student Exchange Center

# 附属図書館

## 弘前大学附属図書館の紹介

弘前大学附属図書館長 正村 和彦

附属図書館は本館と医学部分館、保健学科分室で構成されています。人文、教育、理工、農生の各学部がある文京キャンパスに本館、医学部がある在府町、本町キャンパスに分館と分室があります。医学部分館・分室はおもに医学図書を所蔵しています。他の附属施設と異なり、附属図書館は学生諸君にとって分かりやすい存在ですから、一度来てください。わからないことがあったらカウンターの係りの人に聞いて下さい。図書館の利用法についてのパンフレットも用意してあります。本学の図書館は学生のみでなく、一般市民の方々にも開放しています。ですから、図書館は教員や学生だけのもの

ではなく公共施設であることを認識して利用して下さい。大学という新しい世界に入って学生諸君が期待することは、新しい分野の学習、新しい友人と先生との出会いなどがありますが、これらは限られた世界です。図書館には何万冊もの本があり、これらには時間と空間を越えた著者らの深い思索から生まれた言葉が記されています。これらのなかに諸君の一生に決定的な影響を与える一冊があるかも知れません。

#### 新入生へのことば

現代のアメリカ合衆国は他国の人権問題に介入して世界の政治的・社会的に抑圧された人々を開放する

ヒーローのように振舞っています。しかし、1964年に公民権法が制定されるまで、人種差別による強い政治的・社会的抑圧がありました。公民権法の制定にアメリカ合衆国を動かしたのは Martin Luther King Jr. です。1963年8月28日、ワシントンで黒人公民権獲得のための大デモ行進が行われ、ここで有名なキングの演説が行われました。'I have a dream.' これは人の心を動かすもの、ひとの行動を支える最も力強いものはdreamであることを示しています。諸君は弘前大学で学ぶ過程で、心のなかで'I have a dream.' といえるようになってください。

附属図書館

University Library





# 学生就職支援センター

「素質いっぱい弘大生へ」

学生就職支援センター長 保田 宗良

新入生の皆さん、新しい学園生活はどうですか。勉強にも生活にも落ち着いてきた頃でしょうか。大学で何を勉強するか、自分はどんな仕事に就きたいのか、将来どんな人生を送りたいのか、とても大切なことです。弘前大学では、皆さんに対して大学の授業だけではなく、色々な支援やアドバイスをしています。学生就職支援センターは就職活動をする3・4年生はもちろん、1・2年生の皆さんにもキャリアや進路について、授業やガイダンスや相談を通じて支援しています。

皆さんの先輩の「就職率」はどれぐらいだと思いますか。平成18年3月卒業の先輩は93.3%でした。どう感じますか。この学園だよりが発行される頃には、平成19年度の先輩のデータも集計されていることと思います。全国的に大学生の就職状況は好転し、企業は積極的に若者を採用しています。一方で、青森県の雇用状況は厳しく、有効求人倍率は都道府県の中で最も低迷しています。ひとり一人がしっかりとした職業観やキャリア意識を育成することが大切です。

## <就職活動・キャリアの支援ステップ>

皆さんへの就職・キャリア支援は各学部の就職関連委員会の活動を核に、学務部学生課就職支援グループと学生就職支援センターが「3つの輪」として活動します。分からない事があれば、まずセンターに来てみてください。

皆さんへの主な支援をご紹介します。

### ー1年生ではー

1年生の時はしっかりと「大学生」になってください。高校生とは違います。自分で考え、行動できる人になることが大切です。部活やサークル活動もぜひやりましょう。

### ー2年生ではー

#### ○キャリア教育「社会と私」

21世紀教育テーマ科目として、キャリア教育「社会と私―仕事を通して考える」を開講しています。前期は企業人の方々の講話から学び、後期は職業観をより具体化する

講義です。商工会議所のご協力もいただき、地域の企業ともつながっています。

#### ○自己分析（nEQアセスメント）

弘前大学後援会の援助を受け、全学年の希望者に実施しています。キャリア形成にとって、自分を見つめることも大切です。

#### ○東京都内企業見学会及び東京同窓会懇談会

「社会と私」の単位を取得し、希望する者を対象としています。授業で感じたことや得たことを、実際に自ら企業の現場を見学し、諸先輩と話をすることで更に深めることができます。企業2社の訪問と、大学OB会との懇談会を行いました。弘前大学東京事務所前に現地集合・現地解散です。旅行プラン作成も就職活動のよい準備課題です。

### ー3年生ではー

#### ○各学部の就職ガイダンス

就職活動に向けて、各学部のガイダンスが開催されます。3年から何を準備するのか、就職活動って何をするのか等が説明されます。

#### ○公務員試験・教員採用試験ガイダンス

公務員や教員を希望する学生へのガイダンスです。弘大生協さんや教育学部とも連携しています。

#### ○インターンシップ（職業体験）

3年生の夏季休暇を中心に多くの企業・官公庁・NPO等での職業体験を推進しています。実習期間の他、インターンシップの目的を説明するオリエンテーション、実習の事前研修や事後研修も職業観を培う大切な場面です。

#### ○弘前大学就職応援ブックの配布

3年生全員に就職応援ブックを配布します。先輩の就職先や体験談、就職活動すべての案内がこの一冊に載っています。

### ○業界研究会

3年の夏休み明けに、企業実務者から業界情報を知り、自分の進路を見出すための業界研究会を実施しています。6業界8社各々の話から、業界・企業の見方を学びます。

### ○個別企業セミナー・説明会

学内で開催する個別企業セミナー・説明会を随時受け付け、実施しています。青森という地方にいる学生にとって、大学で聞ける説明会は時間・交通費の面からも大切です。

### ○弘前大学合同企業説明会

3年期末試験終了後、県内外の企業の方々にご参加いただき、大学主催の合同企業説明会を実施しています。この説明会を縁に進路を決める学生も多くいます。昨年はシティ弘前ホテルを会場に、202社・670名の学生が参加しました。

### ー4年生ではー

#### ○就職相談

就職活動も本番です。早い人は早々に、企業の内々定が出来ます。公務員試験や教員採用試験にチャレンジする人もいます。この時期は、ひとり一人の就職活動が中心になります。センターには経験豊富な専任の相談員がいます。相談を通じてひとり一人への支援を行っています。

## <よい環境で育つ素質いっぱい弘大生>

本学は5学部を有する総合大学です。中規模大学だから、学生と教職員も近く、他学部生との付き合いも豊富な環境です。4年間を過ごすこの環境の中、職業観やキャリア意識をぜひ培ってください。就職支援を通じ、無理のないように、気が付いたら充分準備ができて就職戦線に立っているという支援ができればと思います。



学生就職支援センターの様子  
総合教育棟1階学生課の横です



平成18年度合同企業説明会  
熱心に企業の説明を聴きます





# 学務部

## 「がんばれ新入生」

学務部長 和田 公利

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学フィルハーモニー管弦楽団の演奏に迎えられ、弘前大学スピリットを胸に新しいスタートを切って早2ヶ月、キャンパス生活には慣れましたか。私もこの四月に学務部勤務となったばかりですが、毎朝、学生センターで希望溢れる皆さんの雰囲気にも元気を貰っております。

学務部は、皆さんの学習あるいは学生生活を支援し、有意義な学生生活を送るためのお手伝いをする部署です。

組織は、教務課、学生課、入試課、留学生課の4つの課で構成され、入学時から卒業時までの修学から学生生活、さらには卒業後の就職支援までの業務を行っております。

詳細は、学生便覧229頁にあります。主な業務は次のとおりです。

○教務課は、授業時間割、履修、各種証明書など修学に関する窓口です。授業に関する質問、休学・退学、転学部など学籍に関する相談を受けております。

卒業要件、授業科目の履修登録、教員免許状取得に関する疑問などありましたら相談にきてください。

○学生課は、奨学金・授業料免除、課外活動、総合文化祭、学生寮、就職に関する業務を行い、生活面での情報を提供しております。経済的支援、課外活動、就職に関する相談を受けております。また、学生課には「学生相談担当」窓口をもうけ、学生生活での悩み、相談事に応じており、学外のカウンセラーによる相談も毎週水曜日に行っておりますので、気軽に窓口までおいでください。

○入試課は、学部入試、文京地区の大学院入試にかかる業務を担当しておりますが、将来、大学院への進学をめざす方は、多くの情報を用意しておりますので、窓口までおいでください。

○留学生課は、外国からの留学生の受け入れと、日本人学生の海外への派遣、国際交流科目などの教育課程に関する業務、諸外国の大学事情の提供を行っております。本学では、海外の25大学と国際交流協定を結んでおり、留学生交流を進めております。留学に関心のある方はおいでください。事務室は、国際交流センターと同じフロアですので、留学生（現在、21ヶ国133名が在籍しています）との交流の機会もあります。

以上が学務部の概略ですが、教務課及び学生課の窓口は8:30~18:00まで、入試課及び留学生課の窓口は8:30~17:15まで開いております。気軽に相談にきてください。

皆さんは、将来に向かい夢、希望に溢れていることと思いますが、反面、精神的にも肉体的にもまだまだ成長期であり、環境の変化や対人関係、性格のことなど様々な悩みにぶつかると思います。そのような時には先ほどの「学生相談担当」窓口においでください。相談内容によって、より適任者・担当係を紹介するなど、できるだけ早く解決できるようにしています。

また、本学では、皆さんが充実した学生生活を送るため多くの支援体制、相談窓口を用意しております。各学部での「学生担任制度」、学長は

じめすべての教員がオフィスアワーをもうけ、履修相談や進路相談などについて学生と一緒に考える時間を用意しております。また、保健管理センターの専任カウンセラーによる相談など、皆さんの悩み、相談ごとに対応しております。

4年間あるいは6年間の学生生活は、長いようすけれど、まさに「光陰矢のごとし」です。この時期をどのように過ごすかは皆さんそれぞれだと思いますが、課外活動、総合文化祭など諸行事への参加、学生寮での寝食を共にする仲間との交わりなどを通じ、コミュニケーション能力を高めることは、将来、社会に出て大いに役に立つことと思います。また、世界各国からの留学生との交流による異文化体験は、日本文化を再認識する端緒となり、真の国際交流の道を開くことにもなります。いろいろなことに積極的に挑戦し、有意義な人生の1ページをこの弘前大学で刻んでください。



# IV 研究室の紹介

## 農学生命科学部地域環境科学科 地域環境工学講座 農業水利学研究室

工藤 明完  
泉

農業水利学研究室は学部で農業工学科が設置された翌年の1967年4月に誕生し、学内で唯一の「水」をメインテーマとした教育・研究に取り組んでいます。現在、研究室には工藤明教授と泉准教授の2教員と学生、院生が所属し、以下のような研究を行っています。

### 1. 低平地水田地帯の水管理と環境負荷に関する研究 (工藤教授)

津軽平野はその歴史的な経緯から地域的特長を生かした水管理を行っていますが、用水源に乏しい地区が多く、地区内還元水の再利用を積極的に行っています。その実態を把握するため、降雨・用水・排水・水質などの調査を行い、持続的な水利用システムを確立することを目指しています。さらに、水管理の異なる水田地帯や農村市街地、世界自然遺産である白神山地から流出負荷の実態を把握し、負荷軽減対策を構築しようとするものです。図-1は水田地帯で用水の再利用(循環灌漑)を行っている平滝地区、従来の灌漑方法(掛流

し灌漑)である五所川原地区、農村市街地である鶴田地区、森林地帯の白神山地(暗門川流域)における降雨時の流出負荷量(窒素成分)です。同じ降雨量(横軸)でも土地利用状況や水田の水管理によって流出負荷量(縦軸)が異なることが分かります。写真-1は暗門川における流量測定風景です。河川の流量が多い場合は危険を伴うため、ライフジャケットを着用し、背後にはロープを張って調査しています。これらの成果は雨水資源化学会や世界湖沼会議等で発表すると共に、中国からの留学生管化冰君が本年3月に学位論文として取りまとめました。しかし、白神山地における水資源量、流出量、流出負荷量はまだ未解明の部分が多く、今後継続して調査を行いたいと考えています。

### 2. 農村地帯の水環境と水質改善に関する研究 (工藤教授)

農村地帯における水環境の実態を把握し、水質汚濁機構の解明と改善方法について研究しています。特に、汚濁が進行している農村市街地や再利用を行う用排水の水質を改善するため、維持管理が安価で、多量

に入手可能な地域資源(ホタテ貝)を活用した水質浄化法について検討し、実用化を図ろうとするものです。写真-2は本研究を基にして、青森県が建設した青森市新城地区の浄化水路における調査風景です。写真の右側水路が木炭、左側がホタテ貝殻を接触ろ材に使用しています。有機物質や栄養塩類の浄化率は10~40%程度です。この効果を高めるには日頃に維持管理が大切です。

### 3. 魚道に関する研究 (泉准教授)

生活用水や農業用水はおもに河川流下水に依存しており、河川横断工物としての取水堰や頭首工を築造し、これから取水しています。しかし、川が堰き止められるとそこに住んでいる魚類などの移動や遡上・降下などが阻害され、その河川の生態の保全・維持ができなくなります。そこで、取水堰や頭首工には「魚の通り道」が設けられており、この「魚の通り道」を「魚道」といいます。

魚道には様々なタイプの形式があり河川特有の地理的・水理的条件や生態系の条件に適応した魚道形式の選定が必要です。このような中で、魚道が魚類

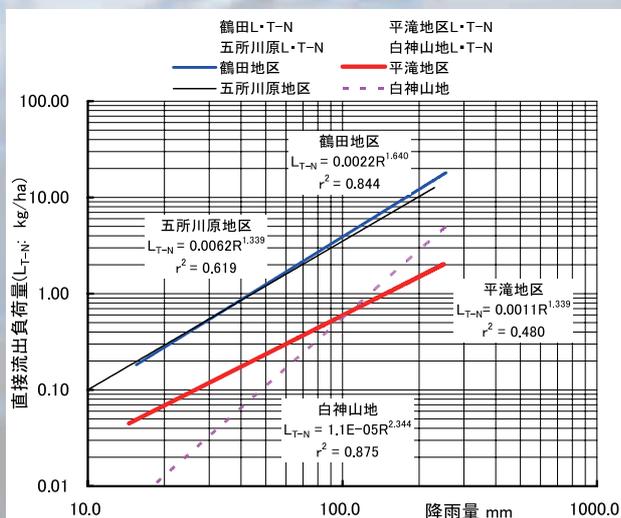


図-1 降雨時の流出負荷量 (全窒素成分)



写真-1 白神山地暗門川の流量調査



写真-2 新城地区浄化水路での実験



写真-3 突進速度に関する遊泳実験

等に本当に利用されているのか？ また、魚道の水理設計で重要な魚の最大遊泳速度はどの程度なのか？などを調べ、今後の魚道設計に活かすことを目的として、現地魚道における魚類等の遡上特性と魚の遊泳速度に関する調査研究を行っています。

フィールドは、白神山地を源流とする岩木川水系と日本海側の赤石川水系、陸奥湾側の蟹田川水系の河川に設置されている魚道です。遡上調査は5月から10月までの月2回の割合で2日にわたる昼夜を通した24時間調査で、2時間ごとに網を引き上げ網に入った(魚道を利用した)魚類等を採捕し、魚種・体長・体重を計測します。図-2は河川の中流部に位置する4カ所の魚道の1日における魚類等が魚道を利用する時間帯とその割合の1例を示したものです。この図から、魚類等が魚道を利用する時間帯は午後から日没後の20時にかけての遡上が多く、深夜から早朝にかけての遡上は極めて少ないことがわかります。また、夜間に遡上する魚類を除き1日の遡上行動には河

川水温も影響することがわかってきました。

また、魚道の水理設計では対象魚種ごとの突進速度(Burst speedといいます)に相応した魚道内で最も流速が速い流れ場を設計流速の代表値としています。突進速度は1~5秒間持続できる最大遊泳速度と定義され、その速度は体長の10倍程度であるとされていますが、魚種によってはどうなのか実際のところまだはっきりわかりません。

そこで、現地河川の魚道中にスタミナトンネル(円筒パイプ)を設置し、突進速度に関する遊泳実験を行っています。計測方法はフィールド的現地観測として魚道内を流下する河川水を用い、スタミナトンネルの実験装置を現地魚道に設置して、円筒管内に流速を与え、魚が円筒パイプ内を流れに逆らい遊泳し、力尽きて流されたときの距離とその間の遊泳時間を計測する方法を採用しています。写真-3は弘

前市の岩木川取水堰魚道での突進速度に関する遊泳実験の様子です。図-3は河川に生息する淡水魚であるコイ科の野生のウグイ(*Tribolodon hakonensis*)の突進速度と体長の関係を示した1例で、図中の数値は円筒パイプ内の代表流速です。この図から、体長が5cm台から20cm台までのウグイの突進速度は $300\text{cm}\cdot\text{s}^{-1}\sim 330\text{cm}\cdot\text{s}^{-1}$ のかなり速い速度を発揮することがわかってきており驚きです。また、魚は流速に応じて遊泳することもわかってきており、突進速度の限界値があると推測しています。したがって、より速い高流速の条件での突進速度についての実験を現在継続中です。また、これらの研究成果は農業土木学会や土木学会の学術論文集に広く公表されています。詳しくは、弘前大学ホームページの教育研究者情報から閲覧ください。

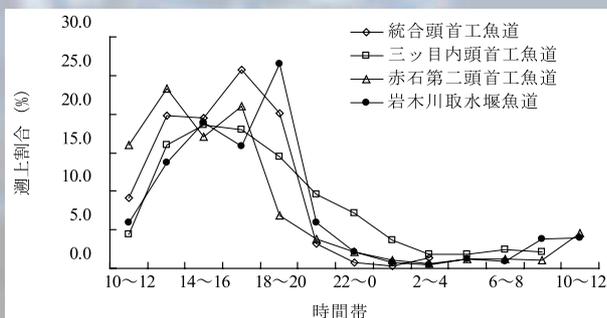


図-2 魚類等の1日における遡上割合

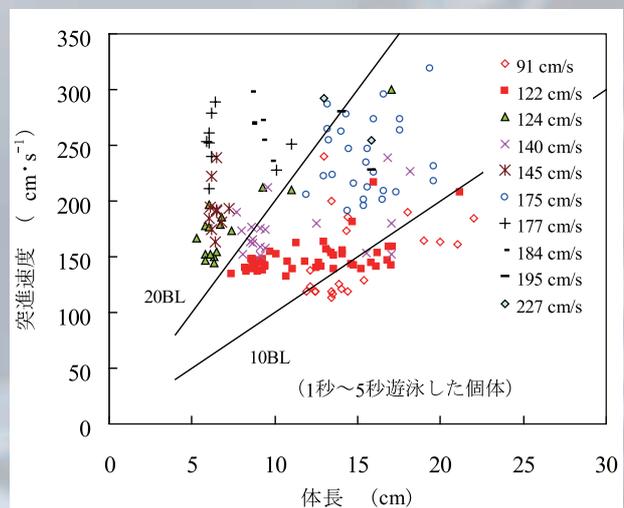


図-3 ウグイの突進速度と体長

# V 新任教員自己紹介



情報行動講座 准教授  
増山 篤

はじめまして。この4月に着任しました増山です。地理情報科学を担当いたします。一般に馴染みの薄い分野ですが、一言で言うと、コンピュータで地図を扱う方法論とその方法論の実際への適用を研究課題としています。学生の皆さんには、この新しい分野を学ぶことが将来の大きな糧となるような教育をしていきたいと考えています。また、弘前の街の落ち着いた雰囲気の中で、心を新たに、研究に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

人文学部

情報行動講座 准教授  
鈴木 淳



このたび情報システム科学の担当として着任しました。人や設備などの経営資源の配置を多基準評価の意思決定問題としてモデル化し、コンピュータを用いて計画する方法を研究しています。本学は学問的に幅広い分野をカバーできるリソースを持つ、ポテンシャルの高い大学だと感じました。その中で情報システム科学について、文系・理系にとらわれない教育と研究をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

人文学部



学校教育講座 幼児教育  
講師 菅田 貴子

4月より幼児教育を担当しております菅田です。富山県出身で、3000メートル級の立山連峰を眺め、3日3晩踊るおわら風の盆のお祭りのなかで育ちました。日本の幼稚園や保育所における外国の子どもたちの生活から異文化間教育を考えたり、子育て支援に関する研究をしております。弘前でも幼稚園や保育所と連携しながら研究を進めていきたいと思ひます。弘前大学の学生のみなさんはコツコツ頑張るといふ印象をもちました。夢に向かって頑張る学生のみなさんの力になるよう精一杯取り組むたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

教育学部

附属教員養成学研究開発センター  
教授 佐藤 紘昭



大学紛争まだ燃えさかる時に弘大を卒業し、30数年ぶりに戻った大学のキャンパスは明るくきれいに生まれ変わっていました。前任の青森高校で開かれた講演会で、遠藤正彦学長が、「医師に求められる3つの感性（高い倫理観と温かい人間性、科学する心、社会正義を実現する強い信念）を磨き、郷土を愛し郷土を良くしたい」といふ使命感を持って、とのお話に心揺さぶられ感動のあまり涙しました。その学長さんの下で働ける幸せを感じ、センター長でもある佐藤三三学部長はじめ諸先生方のご指導を得ながら、使命感と教育愛に燃えた教員を育てるために「教員養成」に誠心誠意努めます。宜しくお願ひします。

教育学部



保健学研究科 健康支援科学領域  
講師 則包 和也

四国の讃岐から弘前にやってきて、はや1ヶ月が過ぎました。仕事はさておき、温泉巡りや北国ならではの食材を使った料理等、北国の生活を楽しんでおります。近頃では早く雪かきを体験してみたいとさえ思ひはじめた不遜な私ですが、一杯飲（やり）ながらたしなめてくださる方を募集しております。よろしくお願ひいたします。

保健学研究科

附属教育実践総合センター  
助手 吉崎 聡子



4月より教育実践総合センター助手となりました吉崎です。教育臨床研究部門にて学校不適応支援の研究等をさせていただいております。弘大で学んだ学生時代と比べ、教育学部内の体制やカリキュラム等の変容に驚かされるばかりです。しかしながら教職を目指す学生の皆さんの瞳の輝きは変わらないと感じております。教員としてまだまだ未熟ではありますが宜しくお願ひ致します。

教育学部



保健学研究科 健康支援科学領域  
助教 成田 大一

はじめまして。助教として採用して頂いた成田大一と申します。名前は小学校1年生で習うような簡単な漢字ですけど、1回で読めた方はあまりいません。「ひろかず」と読みます。多い間違いは「たいち」です。どちらでも慣れているので、反応はできますのでご安心を。弘大出身なので、これまで教わってきた先生方と一緒に働くというのは不思議な感じですが、教育・研究と精一杯取り組んでいきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

保健学研究科

保健学研究科 健康支援科学領域  
助教 小枝 周平



4月より保健学研究科健康支援科学領域の助教になりました小枝周平です。私は作業療法士として弘前脳卒中センターに勤務した後、こちらに赴任いたしました。これからの業務は臨床と離れ、教育・研究が中心となります。教育・研究に対しては、これまでの臨床経験を十分に活かして精一杯取り組んでいきたいと考えております。常に向上心を忘れず一生懸命頑張りますので、どうかよろしくお願ひいたします。

保健学研究科



保健学研究科 健康支援科学領域  
助教 澄川 幸志

はじめまして。弘前大学大学院保健学研究科健康支援科学領域の澄川幸志です。出身は島根県で、大学、大学院生時代を含めると弘前に住み始めて今年で7年目になります。弘前大学を卒業し、作業療法士として、臨床現場において作業療法をおこなってきました。私が臨床現場で得た、楽しさ、厳しさ、面白さを含めた作業療法という学問を伝え・理解してもらおうと同時に、研究を通し自己研鑽をしていきたいと考えています。

保健学研究科

保健学研究科 医療生命科学領域  
助教 安田 成臣



岐阜県関市生まれ、2007年名大院医学系研究科博士後期終了。弘前に来て間もなく、津軽弁を操る地元の方との会話が噛み合わないことが多々ありますが、徐々にリスニング力をつけていきたいと思っています。また、冬の弘前は雪が多い(らしい)ので、車で通勤ができるか今からとても心配です。主な興味の対象は医用画像処理で、最近はノイズ低減処理に興味を抱いています。まだまだ浅学者ですが、どうぞよろしくお願い致します。

保健学研究科



保健学研究科 健康支援科学領域  
助手 千葉 貴子

4月に着任しました、助手の千葉貴子です。母性看護学と助産学の演習・実習に関わらせていただいております。8年ぶりの弘前を、とてもなつかしく思っている間に、1ヶ月が経とうとしています。専攻科時代、まさか自分が弘前大学の職員になるとは思っていませんでした。しっかりしているように見られるのですが、実際は……。いつも笑顔で、一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

保健学研究科

保健学研究科 健康支援科学領域  
助手 安杖 優子



弘前大学入学のため、弘前を訪れてから早いもので7年が経とうとしています。この度、母校で教育・研究に携わることとなりました。とても幸せなことであると実感し、今後、経験を重ね成長していきたいと思っています。「医学部保健学科」が「大学院保健学研究科」として新たなスタートを切った今、教育・研究者として未熟ではありますが、弘前大学のさらなる発展と自分の専門学問に貢献出来るよう、努めていきたいと思っています。

保健学研究科



保健学研究科 健康支援科学領域  
助手 倉内 静香

私は、現保健学科看護学専攻の前身である医療技術短期大学部で、看護という人をケアすることの楽しさ、奥深さなど多くを学ばせていただきました。その母校で働くことができることをとても光栄に感じています。専門分野は地域看護学です。特に地域の中でも母子保健に関心を持ち、研究や地域活動に携わってきました。今後も、地域に住む人々が自分らしく健康に生活していくことができるように研究、教育に励みたいと思っております。

保健学研究科

保健学研究科 健康支援科学領域  
助手 北島 麻衣子



青森市出身。弘前大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程卒業。その後青森県立中央病院消化器内科・化学療法科、内視鏡科等で看護師として勤務してきました。弘前は桜や紅葉など素敵なおとろけスポットがたくさんあり、このような環境で働くことを嬉しく感じています。これまで経験してきたことを病院実習での指導や研究に活かし、精一杯頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

保健学研究科



生物機能科学科 准教授  
千田 峰生

弘前大学農学生命科学部に赴任致しました千田と申します。赴任といっても向かいの遺伝子実験施設から100メートルほど移動しただけですので何も目新しいことはございません(あえて目新しいことといえば農学生命科学部の便座はヒンヤリしていることでしょうか)。とはいえ、施設から学部に移ったことにより、授業、委員会等で多くの先生および事務の方々との接する機会が何かと増えてきました。今後ともよろしくお願い致します。

農学生命科学科

応用生命工学科 准教授  
柏木 明子



5月に農学生命科学部に赴任いたしました。これまで関西でしか生活をしたことがないため、弘前の冬を楽しみにしております。今までは分子生物学的手法を用い、実験室内進化系を構築し、生物の多様性の維持、環境適応のメカニズムなどに関して研究をして参りました。自然豊かな弘前の地で、まだまだ解明されていない生き物の不思議さにふれながら、皆さんと一緒に学びたいと思っております。よろしくお願い致します。

農学生命科学科



# VI けいじばんコーナー

## 平成18年度弘前大学学生表彰



遠藤学長（前列右から6人目）と受賞者ら

受賞者を代表して、第57回東北地区大学総合体育大会剣道競技男子団体が優勝した人文学部3年の平 昌史さんが「今後も弘前大学の学生であるという誇りと自覚を持って、それぞれの活動に励んでいきたい」と謝辞を述べた。

弘前大学では、研究活動や課外活動で活躍した学生及び学生団体を表彰する学生表彰授与式を、3月2日（金）同大学事務局大会議室で行った。

今回の受賞者は課外活動で特に優秀な成績を挙げた7団体、個人18名、研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生3名及びサークルの活性化に顕著な功績があった1団体の合計29組で、表彰式には各学部長、指導教員及びサークル顧問の教員も出席し、遠藤学長から学生1人ひとりに表彰状と記念品が贈呈された。

遠藤学長は、「年々授賞者が増えているのは、学生の皆さんが活発に活動しているからで、大学の活性化に大いに貢献している」と学生の功績を讃えた。

## 課外活動団体功労者へ感謝状を贈呈

平成18年度の課外活動団体功労者感謝状贈呈式が3月14日（水）に特別会議室で執り行われ、佐々木亨氏、松井孝洋氏、三橋清氏に対して遠藤学長から感謝状が贈呈された。

贈呈理由は次のとおりです。

佐々木氏は平成2年より弘前大学ソフトテニス部OB会（弘城会）の事務局長に就任され、ソフトテニスの技術面はもとより、財政面でも多大な支援をいただいたため。

松井氏は41年間の永きに渡り本学空手道部をご指導くださり、東日本医科学生総合体育大会男子総合優勝等の優秀な成績を修めるに至ったため。

三橋氏は本学空手道部を全日本大学空手道選手権大会5年連続出場、全国国公立大学空手道選手権大会優勝に導く等貢献が大きいため。

贈呈式終了後、遠藤学長と功労者及び顧問教員を交えて和やかに懇談が行われた。



遠藤学長（中央）と受賞者ら

## Ⅶ 編集後記

待ちに待った桜の花が咲き、弘前に春の訪れを告げました。弘前の春を初めて過ごす新入生の皆さんは、弘前の誇る桜をごらんになっていかがでしたか。

新入生の皆さん、弘前大学へようこそ。今号は、「がんばれ新入生」という特集で入学したての新入生の皆さんからの声と、新入生を迎える側から、先輩、弘前大学の学長及び各施設長から、新入生を歓迎する言葉を集めました。

新入生の声には、大学生活に対する意欲が充ち満ちています。皆さんが、充実した楽しい大学生活を送ることができるよう、私たち教職員は、全力でサポートしたいと思います。

また楽しさの一方で、初めての親元を離れた一人暮らしや、高校までとは全く異なる生活環境など、不安なこともあることでしょう。困ったことがあったら、弘前大学には色々な窓口がありますから、一人で考え込まずにいつでも相談して欲しいと思います。そして、大いに大学生活を楽しんでください。（M.W）



## 2007年度は「環境に優しいキャンパス」がテーマです

弘前大学生生活共同組合

弘前大学は中期計画で環境マネジメントシステムの取得による環境に優しいキャンパスづくりを目標にしています。弘前大学生協もその目標の達成に向けて、割り箸リサイクルやクリーンキャンパスなど、積極的に色々な活動に取り組んで来ました。2007年度はそれら諸活動の基幹となる「KES」（環境負荷軽減を図るためのマネジメントシステムのひとつ）の認証取得を主要な課題にしています。

生協の環境マネジメントシステムの構築の特徴は、利用者である学生や教職員の協力と参加を得ながら、一緒に活動を推進していくことにあります。そのため、第46回通常総代会などを通して取組みに対するたくさんの声を反映させ議論し、取組み内容の充実を図っていきます。



4月23日～25日まで、レジ袋の削減を目標に5円有料化を実験的に行い、3日間の利用率が4%となりました（通常利用率60%以上）。また、雨の日の対策や使いたくなるエコバックの開発などの課題も発見できました。



学生環境サークル「わどわ」の協力でコピー用紙やチラシ類の紙の削減活動も推進中です。また教育学部のレジ袋アンケートデータを活用させてもらうなど、キャンパス内の環境ネットワークの協力と参加が前進しています。



生協学生委員会が毎年行っている花壇植栽。今年もまずチューリップがきれいに咲きました。このようなキャンパス美化活動やクリーンキャンパスにも力を入れていきます。

※「レジ袋の有料化」「弁当容器の回収」など、環境に関する意見は下記の方法でお寄せ下さい。

- ① 店舗のレジ袋アンケートや総代会アンケートへの記入
- ② 生協HP ([www.coop.hirosaki-u.ac.jp](http://www.coop.hirosaki-u.ac.jp)) の「レジ袋有料化などへの意見」への投稿

生協は皆さんの声をもとに、一緒に環境に優しいキャンパスづくりを推進していきます。

## 弘前大学生協から **ほっと** ニュース

### 大学会館店「SHAREA」オープン！

3月22日（木）、大学会館店がリニューアルし「SHAREA」の名称でオープンしました。きれいで明るい店舗になりましたので、利用サービス面の充実に努力し、真に愛される店舗となりますよう職員一同頑張ります。



### オリジナルグッズにニューフェイス

日本酒などの弘前大学オリジナルの商品はもうご存知のことと思います。今年7月にニューフェイスが登場しますのでお知らせいたします。

#### 弘前大学オリジナルビール アップルエール

日本酒「弘前大学」同様、農学生命科学部附属農場産のりんごをベースに開発されました。スイリジェと食堂、レストランにて提供の予定ですので、コンパや故郷へのおみやげとしてご利用をお願いいたします。

（※写真のラベルは試作品用のものです）





**弘前大学 学園だより** Vol. 155  
2007年6月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、  
下記のアドレスまでお寄せ願います。  
e-mail [jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp)  
弘前大学学務部学生課

国立大学法人 弘前大学  
「学園だより」編集委員会  
委員長  
氏家良博(教育・学生委員会)  
委員  
渡辺麻里子(人文学部)  
北原啓司(教育学部)  
松谷秀哉(医学研究科)  
鈴木光子(保健学研究科)  
遠田義晴(理工学研究科)  
比留間潔(農学生命科学部)  
笹森利通(学生課)  
石岡勝彦(学生課)  
印刷：やまと印刷株